

日刊 動労千葉

83. 8. 26

No. 1427

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

勝利争闘ト ジェツト 塚三里 砕粉革行 調臨

ハチの巣につけばササレルよ と屈服を煽る反動ポスター

叩きな—もっと効け—企業を守れ と煽動する動労本部「革マル」と全施労公明党

最近、動労「本部」のいる職場で、奇妙な「ポスター」が貼り出されている。組合の掲示板に貼りだされたこの奇妙な「ポスター」は、今日の動労「本部」革マルの反動路線を如実に示している。しかも、全施労と共同で製作したこの「ポスター」こそ、国鉄版・反動潮流の合体を公然化したものである。われわれは、政府・支配者階級・国鉄当局に対して少なからず対決する姿勢をスローガン・ポスター等で主張することが労働運動・組合の原則的立場であると認識しているものである。にもかかわらず、貼り出された「ポスター」は、その一片の階級性すら見られぬしるものであり、われわれは厳しく断罪し、このように反動化した動労「本部」革マルを打倒・一掃しなくてはならない。

「働こう運動」を煽動する反動ポスター

動労「本部」革マルは、これまでの国労とわが動労千葉の闘いを全面的に否定し、かつ、国鉄当局の先兵となって、国鉄労働運動の破壊攻撃にうってでてきている。最近では、「労働組合の真の使命は、やみくもにたたかうだけでなく、組合員の職場と仕事をどう守るのかにある」などとして、闘うことを一切放棄し、「職場と仕事を守る」ためにもっと「働こう」なるものを方針にし、国鉄当局の合理化攻撃に全面屈服・協力しているのである。「ポスター」はこのことを正直に表わしたものである。

国鉄労働者の職場既得権を守る闘いを嘲笑し、その「標語」で、「ハチの巣をつけばササレルよ」、「ヤブをつけばヘビが出る」としている。これこそ動労「本部」革マル式「冬の時代」論をもってする「闘うべきではない」、「闘う者は挑

発者」なる反動路線を露骨に表現したものである。ここには、政府・国鉄当局・権力に対する一片の怒りや憎しみなどさらさらなく、文字通り、敵の先兵そのものの代弁者である。

企業防衛を呼びかける動労「本部」革マル

更に、「ポスター」スローガンは、「国鉄労働者の団結で職場と仕事を守ろう」としている。これは完全に「企業防衛」の立場にたち、労働者階級の立場を完全に放棄した、断じて許せぬものである。これは、今、三重県・伊勢市で開かれている動労第三九回全国大会で、路線化されようとしている「仕事があり職場があつてこそ国鉄労働者として生活ができる」との立場である。つまり、支配階級の経済危機—国鉄再建論・国家危機—国家防衛論となんらかわらぬものである。「職場を守る」—「企業を守る」、そのために「働こう」ということで、あたかも労働者の権利が守れるかのように主張しているが、実は、労働者としての生活・権利などどうでもよく、いわゆる「革マル党」あるいは、その傘下の者だけが「生きのびる」ことができればいいという断じて許すことのできない思想であり、反動的路線である。商業新聞でも報じられたように、「動労がまたまた柔軟な方針」にみられるように、完全に政府・国鉄当局のより悪らつな先兵となつたファシスト集団を、戦闘的国鉄労働運動から一掃し、打倒しようではないか。



国鉄労働者の団結で職場と仕事を守ろう

国鉄動力車労働組合・全国鉄施設労働組合

△ なんとおぞましい感覚・精神であることか…!

▽ 歯止めなき右傾化=墮落の道へ。
(動労39回大会)

1983年 8月25日 第13号
「職場あつての労働者」
動労が柔軟な方針提案
国鉄労働組合(全動労)は、職場と仕事を守るため、労働者の権利を守るため、生活の安定を確保するため、柔軟な方針を提案した。これは、労働者の生活を守るため、職場を守るため、仕事を守るため、柔軟な方針を提案した。これは、労働者の生活を守るため、職場を守るため、仕事を守るため、柔軟な方針を提案した。

よ！砕粉組織を攻撃する強固な団結の家族員組合全